

--	--	--	--	--

ニューキャンパスシリーズ 44 (通算 456 回)

2010 年 4 月 22 日 (木)

教育・研究指導現場における——

アカデミック・ハラスメント防止対策の本格展開

ニューキャンパスシリーズ 45 (通算 457 回)

2010 年 4 月 23 日 (金)

誰のための防止対策か——

セクシュアル・ハラスメント対策の最新動向と実際 II

教育・研究指導現場における——

アカデミック・ハラスメント防止対策の本格展開

～学生・院生・留学生を取り巻く環境／誰にも公正な相談・対応／ハラスメントの“罰”とは～

- ※ [中央大] 防止対策の実情／相談事案対応の流れ／学生による学生のための防止啓発活動
- ※ ハラスメントの本質／ハラスメントでどのような「罰」を受けるのか／不利益、損失の認識
- ※ [名古屋大] 倍増した相談件数／対応の実際～解決への流れ／相談員の“本音”はいかに
- ※ 防止は大学の責務／公正・公平・信頼性の原点と質確保／キャンパス構造改革への処方箋

● 講師陣 ●

飯塚 恭子 氏 / 中央大学 ハラスメント防止啓発支援室 室長
若林 実 氏 / 若林法律事務所 弁護士
NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 理事
葛 文綺 氏 / 名古屋大学 ハラスメント相談センター 相談員
村中 知子 氏 / 茨城大学 人文学部 教授、元・ハラスメント対策委員長

2010 年 4 月 22 日 (木) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)

誰のための防止対策か——

セクシュアル・ハラスメント対策の最新動向と実際 II

～事案・裁判例／相談・対応・解決への流れ／学生・院生からの提言～

- ※ 使える仕組みとは／相談・苦情申し立ての実際とロールプレイ／万全の体制はありえるのか
- ※ 最近の裁判例／セクハラ多発の原因～教員と学生との関係／事後対策の重要性と失敗例
- ※ 最近の学生・院生の状況／ジェンダー、セクハラ認識のギャップ／学生・院生の視点
- ※ [日本福祉大] 信頼される相談・防止体制／ソーシャルワーカー導入／大学ができること

● 講師陣 ●

丹羽 雅代 氏 / NPO女性の安全と健康のための支援教育センター 運営委員
菅谷 貴子 氏 / 山田・尾崎法律事務所 弁護士
名古屋大学大学院 院生 氏
國中 咲枝 氏 / 日本福祉大学 ソーシャルワーカー

2010 年 4 月 23 日 (金) 剛堂会館 会議室 (東京・麹町)



[参加要領]

日時 : ニューキャンパスシリーズ 44 アカデミック・ハラスメント防止対策の本格展開
 2010年4月22日(木) 10:00~16:50
 ニューキャンパスシリーズ 45 セクシュアル・ハラスメント対策の最新動向と実際Ⅱ
 2010年4月23日(金) 9:40~16:50

会場 : 剛堂会館(明治薬科大学)会議室 (東京・麹町) ※両日程、同会場です
 東京都千代田区紀尾井町3-27 TEL 03-3234-7362
 (東京メトロ有楽町線「麹町駅」1番出口から徒歩4分、JR中央・総武線「四ツ谷駅」麹町口から徒歩10分)

参加費	ご一名 (資料代を含む)	メディア参加 (資料及び音声CD送付)
ニューキャンパスシリーズ 44 アカデミック・ハラスメント防止対策の本格展開	41,000円 (消費税込)	42,000円(送料、消費税込)
ニューキャンパスシリーズ 45 セクシュアル・ハラスメント対策の最新動向と実際Ⅱ	40,000円 (消費税込)	41,000円(送料、消費税込)

※参加費の払い戻しはしませんので、申し込まれた方の都合が悪いときには代理の方がご出席ください。

申込方法 : 参加申込書に所要事項を記入のうえ FAX または Email にてご送付ください。
 受講証と会場地図を送付しますので必ずご確認ください。

支払方法 : 銀行振込・郵便振替・当日払いがあります。
 みずほ銀行麹町支店 普通 1159880 三菱東京UFJ銀行神田支店 普通 5829767
 三井住友銀行麹町支店 普通 7411658 *郵便振替: 00110-8-81660
 すべての口座名 (株)地域科学研究会
 (なお、ご請求なき場合は振込受領書を領収書に代えさせていただきます)

インターネットでのご案内は⇒ <http://www.chiikikagaku-k.co.jp/> E-mail: kkj@chiikikagaku-k.co.jp

お申込み・お問合せ



地域科学研究会
 高等教育情報センター

東京都千代田区一番町6-4 ライオンズ第2-106
 TEL 03(3234)1231 FAX 03(3234)4993

キリトリ線(※参加申込みの折は必ずお送りください)

研修会参加申込書

2010年 月 日

- ニューキャンパスシリーズ 44 アカデミック・ハラスメント防止対策の本格展開
 当日参加 メディア参加
 ニューキャンパスシリーズ 45 セクシュアル・ハラスメント対策の最新動向と実際Ⅱ
 当日参加 メディア参加 (□に✓印を入れてください)

勤務先 _____

所在地 〒 _____

TEL _____

FAX _____

連絡部課・担当者 _____

参加者氏名	所属部課役職名	メールアドレス

(通信欄) 支払方法(郵便振替・当日払い・銀行振込) 請求書(要 不要)

※この個人情報は、本セミナーの一連の業務及び今後のご案内に使用させていただきます。

時間	講義項目
10:00 ～ 11:20	<p>□ [中央大] キャンパス・ハラスメント防止対策の実情と課題 ～防止に繋げる事案対応を考える～</p> <p style="text-align: right;">中央大学 飯塚 恭子</p> <p>1. 相談事案対応の流れ (1) ハラスメント防止啓発委員会常務委員会の役割と実際 (2) ハラスメント防止啓発支援室の役割と実際</p> <p>2. 防止啓発活動の実際と課題 (1) 教職員への防止啓発 (2) 学生への防止啓発～学生による学生のための防止啓発活動の動き～</p> <p>3. 防止啓発に繋げる事案対応の課題 (1) 既存規程に阻まれるケースの扱いについて (2) 加害者に対する防止啓発はどこまで可能か? 〈質疑応答〉</p>
11:30 ～ 13:00	<p>□ 「ハラスメント」を行うと、どのような「罰」を受けるか ～「ハラスメント」とはどのようなことか、受ける「罰」とは何か～</p> <p style="text-align: right;">若林法律事務所/NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク 若林 実</p> <p>1. ハラスメントとは (1) ハラスメントの本質 (2) ハラスメントの具体例</p> <p>2. ハラスメントを行うことによって受ける「罰」とは (1) 履歴書における賞と「罰」 (2) 大学等の規則に基づく処分 (3) 裁判(決定・判決)による「罰」 (4) その他、大学等の組織が受ける様々な不利益 〈質疑応答〉</p>
14:00 ～ 15:20	<p>□ [名古屋大] 相談員から見たハラスメント相談 ～名古屋大学のハラスメント防止対策の実際～</p> <p style="text-align: right;">名古屋大学 葛 文綺</p> <p>1. セクシュアル・ハラスメント相談所からハラスメント相談センターへの移行 ～倍増した相談件数、アカハラ・パワハラへの対応 (1) 名古屋大学の防止体制 (2) ガイドラインの改正～アカハラ・パワハラガイドラインの制定 (3) 相談体制～申立ての増加と相手方の来談、相談員マンパワーの不足 (4) 防止研修～一人一人の啓蒙のために、副産物としての部局・教員との顔繋ぎ</p> <p>2. 相談員から見たハラスメント相談 (1) データから見るハラスメント相談 (2) 相談の実際～「被害者」に出来ること ①セクハラ相談～ストーカー・恋愛妄想の増加 ②アカハラ相談～教員-学生間の問題を中心に ③パワハラ相談～上司の適切な対応が求められる (3) 解決への流れ</p> <p>3. まとめ～相談員の本音 (1) 専門知識を持った相談員の必要性 (2) 制度に助けられている実感 〈質疑応答〉</p>
15:30 ～ 16:50	<p>□ ハラスメント防止体制の進化とキャンパス構造改革 ～公正・公平・信頼性の確保/モラル・ハザードへの危機意識～</p> <p style="text-align: right;">茨城大学 村中 知子</p> <p>1. 原点に立ち返って考える——なぜハラスメントの防止が必要なのか (1) ハラスメントの正確な理解～人格権の侵害/精神的暴力が信頼と活力を破壊 (2) ハラスメント防止のための理念の確立～たとえば「人権憲章」 (3) 大学の責務～安心して学び、教え、働ける環境の整備</p> <p>2. ハラスメント防止・救済・対策体制の確立～受付窓口と規則 (1) 規則の不備は二次的ハラスメントを招く～モラル・ハザードへの危機意識 (2) 防止規則に必須の条項～公正・公平・信頼性の確保 (3) 規則運用にも求められる理念～「規則にない」は言い訳にならない</p> <p>3. 公正・公平・信頼性の原点——調査委員会のあり方 (1) 調査委員の質の確保～間違った対応を避けるためにハラスメントを学習する (2) 正確な事実調査を最優先～被害者と加害者双方の人権を守る (3) 調査委員会の透明性の担保～記録を残し、正当性を説明する</p> <p>4. キャンパス構造改革への処方箋——大学は何をなすべきか (1) コンプライアンスの実践と絶えざる自己点検 (2) 説明を尽くし、信頼性を獲得する～ハラスメントの実態の公表が防止への道 (3) 「ハラスメントを許さない」～大学トップと教職員の連携 〈質疑応答〉</p>

時間	講義項目
9:40 ～ 11:10	<p>□ 全学で取り組むセクハラのないキャンパスづくり～防止につながる有効な仕組みの実際 ～最近の大学等のセクハラ問題の動向をふまえて／相談員・防止委員への研修課題～ NPO女性の安全と健康のための支援教育センター 丹羽 雅代</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題を顕在化させにくい、解決が困難な場所に共通すること <ol style="list-style-type: none"> ジェンダー・バランスとジェンダー・バイアス・カルチャー パワー構造の強さ／大学像の変化／学生像の変化／被害者の受けるダメージの大きさ 使える仕組み～相談・苦情申し立ての実際とロールプレイ <ol style="list-style-type: none"> 相談時の留意点～二次加害につながる言動とは 調査・調停を担当するときの留意点 相談員の研修課題～ロールプレイ 大学の意思決定とルールの特化 万全の体制はあり得るのか～あらゆる組織は間違いを起こしうる、常に振り返る <ol style="list-style-type: none"> ハラスメントは表面化しなかった／させなかった～責任はパワーを持つ側にある 防止と啓発が一番～人権やジェンダー意識が身近に感じられる本気での取り組みを 予防のための意識と行動のチェックポイント (質疑応答)
11:20 ～ 12:50	<p>□ キャンパスセクハラ事案の特徴と法的対策 ～キャンパスにおいてセクハラが多発する原因とその対策～ 山田・尾崎法律事務所 菅谷 貴子</p> <ol style="list-style-type: none"> セクシュアル・ハラスメントとは <ol style="list-style-type: none"> セクシュアル・ハラスメントの定義と種類 セクシュアル・ハラスメントの原因と背景 キャンパスセクハラの特徴と原因 <ol style="list-style-type: none"> キャンパスセクハラが起こる温床 キャンパスセクハラの特徴 (教員と学生との関係) キャンパスセクハラの前予防と事後対策 <ol style="list-style-type: none"> 事前予防としての意識改革 事後対策の重要性と失敗例 最近のキャンパスセクハラ裁判例 (質疑応答)
13:50 ～ 15:00	<p>□ 学生・院生からの提言—ハラスメントのないキャンパスのための風土改革 ～院生、留学生、社会人院生へのセクハラ被害とは／誰のための防止策か～ 名古屋大学大学院生</p> <ol style="list-style-type: none"> 最近の学生・院生を取り巻く学内外の環境と状況 セクハラ、ジェンダーに対する認識のギャップを感じる時～学生、院生と教職員との関係 相談対応への期待～セクハラ被害を話すことへの不安、建前、本音 誰のための防止対策か～学生・院生への視点は欠けていないか (質疑応答)
15:10 ～ 16:50	<p>□ 私立中規模大学におけるセクハラ・性暴力防止の取り組みと課題 ～信頼される相談・防止体制を作るために／ソーシャルワーカーの導入～ 日本福祉大学 國中 咲枝</p> <ol style="list-style-type: none"> 日本福祉大学について <ol style="list-style-type: none"> 日本福祉大学の特徴 ハラスメント防止体制の紹介 ソーシャルワーカー導入の背景と経緯 <ol style="list-style-type: none"> 社会的背景～ソーシャルワーカーの役割 学内の状況～“相談員”を補完するものとして 常勤のソーシャルワーカー配置の意義 実際のハラスメント対応と具体的取り組み <ol style="list-style-type: none"> ソーシャルワーカーとしてのハラスメント対応～解決までの流れ ハラスメント防止のための取り組み～啓発活動への取り組み 大学周辺地域で起こる性暴力防止への取り組み 今後の課題 <ol style="list-style-type: none"> 地方中規模大学の相談員・ソーシャルワーカーができること 被害者の自己決定と回復への保障 信頼される相談・防止体制に向けて (質疑応答)